

平成 27 年度事業報告概要

社会福祉法人 三田市社会福祉協議会

社協組織機能の強化を図ります

重点項目

1. 的確で迅速な意思決定ができる組織基盤づくり

… 地域福祉の推進を図ることを使命とした団体であることを常に意識し、活動の充実を図るとともに職員の育成に努めます。

2. 社協の存在が実感でき、認知される広報・啓発の推進

… 三田市社協PR大使「さんだ愛の妖精 さっちゃん」の着ぐるみ作成、さんだ社協だよりのポスティング（全戸配布）を通して、広報・啓発活動のさらなる充実を図り、市民に親しまれ、頼りにされる社協をめざします。

3. 事業・サービス等を安定的に継続するための財源確保と仕組みづくり

4. 市民にやさしい総合福祉保健センターの管理・運営

… 総合福祉保健センター管理・運營業務を充実し、市民が安全、快適に利用できる社協ならではのサービス提供に努めます。

1. 的確で迅速な意思決定ができる組織基盤づくり（P 1～5、P 7）

- ・ 理事会（11回）、評議員会（3回）を定期開催した。
- ・ 役員研修の実施

内 容 「総合相談支援と社会福祉協議会」

講 師 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授 藤井 博志 氏

参加者 理事11名、監事1名、評議員等26名 市・社協職員33名 計 71名



2. 社協の存在が実感でき、認知される広報・啓発の推進（P 23～27）

- ・ 社協だよりをポスティング（全戸配布）化し、今年度新設した広報戦略検討チーム会議での検討をもとにホームページやフェイスブックなどの広報媒体を通じて、社協事業や地域福祉活動の情報発信をタイムリーに行い、様々な世代に向けた広報活動を行った。

加えて、社協PR大使「さんだ愛の妖精さっちゃん」の着ぐるみを作成し、地域活動への参加や広報誌の取材を通して、市民に親しみを感じていただける社協PRを行うことができた。

市役所新庁舎の障害者アンテナショップ「キラリ」では、市マスコットのキッピー・ハッピーが出迎えてくれました！

（社協だより8月号取材より）



- 福祉学習の推進及び社協の認知度向上をねらいに社協職員が地域の公民館や集会所、学校、企業・事業所などに出向く「出張ふくし教室」を積極的に開催した。

平成27年度実績：全32回、参加者計927名



◀ 市内各地でご要望に応じたメニューを実施しています。

3. 事業・サービス等を安定的に継続するための財源確保と仕組みづくり (P161~163、P18~19)

- 地域福祉財源（善意銀行・赤い羽根共同募金）のあり方検討
 - … 赤い羽根共同募金については、まちづくり活動者からの提案により、三田市内の飲食店29店舗で、一杯10円が赤い羽根共同募金に寄付される「カンパリダービー」を実施（9月4日～10月5日）。59,910円のご協力をいただいた。
- 産業医・安全衛生委員会による健康管理・相談・巡回等働きやすい職場づくり
 - … 常時50人以上の労働者を使用する事業所であることから、労働安全衛生法に基づき、安全衛生委員会を開催した。

開催回数 12回（月1回）

内容 健康管理のあり方、健康診断結果振り返りなど

構成員 事務局長、産業医（いまだ内科クリニック 今田世紀先生）

事務局次長（安全推進者）、衛生管理者、労働者側選任委員（各課より選出）：全8名

- 新社会福祉法人会計基準に準拠した法人運営

… 新会計基準に基づいた平成27年度予算に基づき、予算執行を行った。



▲ 各店舗で募金箱の設置も行っていただき、募金の輪を広げていただきました

4. 市民にやさしい総合福祉保健センターの管理・運営（P30～32）

自主事業として、補聴器専門業者による補聴器相談（延べ147件）、ユニバーサルデザイン見学会、市内障がい者施設・団体が一堂に集い販売・啓発を行うふくしまルシェなど、独自性のあるセンター運営を行った。



◀ ふくしまルシェ（4月7日開催）では、8施設・団体が出店。「おいしい」「すてき」が手に入るだけでなく、あすなる腹話術サークル「ニコニコ」による腹話術とバルーンアートで笑顔もたくさん生まれました。

- ふれあい福祉バス助成事業では、市内の福祉保健団体などによる地域内の交流のきっかけづくりを支援した。
申請件数は、163件（平成26年度 188件）